

外来哺乳類の在来生態系や農業への影響 に関する研究：生態学

教員名：栗山 武夫

連絡先メールアドレス：kuriyama<atmark>wmi-hyogo.jp

◎ どのような研究をされていて、どんなことに役立つのか？

外来生物は、農作物被害、病原体の媒介、生態系の攪乱等さまざまな問題を引き起こしています。特に、食物連鎖の上位に位置する外来の哺乳類アライグマは、捕食者として在来生態系に深刻な影響を与えているといわれています。しかし、どの程度在来生態系に影響があるのかは実は定量的に明らかにはされていません。



里山生態系において食物連鎖の中位に存在し、農業害虫などを餌として食べてくれる両生類を対象に、アライグマからの影響評価を行っています。またアライグマを含めた外来哺乳類の効率的な捕獲手法の開発にも取り組んでいます。



◎ 主な研究業績

- 1) 《在来タヌキとアライグマの研究》栗山 武夫・小井土美香・長田 穰・浅田 正彦・横溝 裕行・宮下 直 (印刷中) 密度推定に基づいたタヌキに対する外来哺乳類 (アライグマ・ハクビシン) の影響. 保全生態学研究
- 2) 《イノシシの個体数推定の研究》Osada, Y, Kuriyama T, Asada M, Yokomizo H, Miyashita T (2015) Exploring the drivers of wildlife population dynamics from insufficient data by Bayesian model averaging. *Population Ecology* 57:485-493

◎ 学生に向けて一言

哺乳類はもちろんのこと、関係する両生類や他の分類群の保全生態学の研究にも興味・関心を持つ学生（社会人を含む）の大学院進学を受け入れます。野外調査だけでなくGISや統計手法を駆使しながらの分析も行い、その結果は県の保護管理の計画にも活用されます。